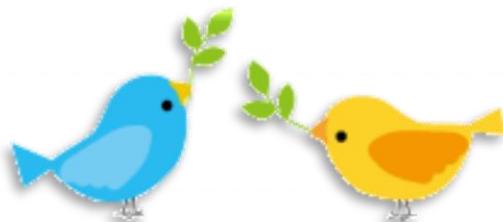


## ～依存症という病気と治療の考え方について正しく理解する～

アルコール依存症の患者のイメージとはどんなものでしょうか。隠れ酒、嘘をつく、家庭内暴力、無断欠勤、仕事上のトラブル、飲酒運転、困窮、別居、……。依存症の人は、「意志が弱い人」「だらしない人」といったイメージがあるかもしれません。家族が大変苦勞していることも事実ですし、本人に対してやさしくなれない、甘やかしてはいけないと思ってしまう気持ちもわかります。実際に、救急外来などの医療現場においても、依存症の患者は、しばしば医療者からもマイナスのイメージをもって迎えられてきました。しかし、本人や家族、援助者の皆様をお願いしたいのは、まずは、**病気と治療に関して正しい理解をしていただきたい**ということです。



いま、依存症の理解や治療が大きく変わろうとしています。これまで依存症は特殊な病気とされてきました。しかし、近年、その背景には、抑うつや不安、引きこもり、自傷、摂食障害、暴力の加害や被害など、そして健常とされる人たちとも共通する問題があることが明らかになってきました。その問題の形成には、人生早期の体験が影響しているのです。<sup>1,2)</sup>裏を返せば、依存症という問題は、この共通する問題のひとつの表れに過ぎません。従来、依存症に対して、アルコールや薬を使う・使わないに焦点をあてた専門的な技法が適用されてきました。しかし、そういった方法は、問題の表面を切り取るだけのもので、根本的な治療とはならないのです。

《参考文献》

1. ウィリアム・R・ミラー, キャスリーン・M・キャロル 著, 森田典彰 訳, アルコール・薬物依存症を一から見直す. 科学的根拠の基づく依存症の理解と支援.
2. JG アレン 著, 上地雄一郎・神谷真由美 訳, 愛着関係とメンタライジングによるトラウマ治療—素朴で古い療法のすすめ.

